

## 第1回攻めの農林水産業実行本部議事要旨

開催日時：平成26年9月8日（月）17：00～17：25

開催場所：第一特別会議室

出席者：西川大臣、あべ副大臣、小泉副大臣、中川大臣政務官、事務次官、官房長、総括審議官、総括審議官（国際）、技術総括審議官、検査部長、統計部長、消費・安全局長、食料産業局長、生産局長、経営局長、農村振興局長、農林水産技術会議事務局長、林野庁長官、水産庁長官、関東農政局長（TV会議システムにより出席）東北農政局長、北陸農政局長、東海農政局長、近畿農政局長、中国四国農政局長、九州農政局次長、北海道農政事務所長、北海道開発局次長、沖縄総合事務局農林水産部長

議題：「攻めの農林水産業実行本部」の設置について

発言者及び発言内容：以下のとおり。

（西川大臣）「農林水産業・地域の活力創造プラン」を着実に実行するため、私を本部長として攻めの農林水産業実行本部を立ち上げた。

農林水産省のこれまでの仕事は、生産に少し偏り過ぎてはいなかったかということで、これから生産と需要の開拓を両方一緒にやって農家の所得の向上につなげたい。そして、若い人たちが農林水産業に戻ってくることを願って政策を実行したい。

市場の開拓について省を挙げて取り組みたい。輸出については、世界一優秀な日本の農産物、林産物を、人口の多いヨーロッパの5億人、アメリカ合衆国の3.1億人も重視し、目標は少し高めのものを作りたい。

総力を挙げて政策を遂行すれば農林水産業は必ず成長産業になり得ると信じて努力してまいりたい。マスコミの皆さんを含め、国民の皆さんの協力を得ながら、農林水産業が頑張り始めたということを見ていただきたい。

「攻め」とは何か、「強い」とは何かを皆で考え、目標を絞っていきたい。

林業も素晴らしい林産物を作っている中で、自分の木を切れない状況を早く脱したい。水産業についても、かつては漁獲高が世界一であったことから、頂点を目指して取り組んでいきたい。

（あべ副大臣）攻めの農業、まだまだある潜在力をしっかりと出していきながら、所得倍増がんばっていきましょう。

（小泉副大臣）今日は意義深いスタートに立ち会った。立ち上がるということは、そこから行動が始まるということ。大臣に先頭に立っていただき、身を粉にして御協力し、皆さんと知恵を出しあっていきたい。

（中川政務官）昨日、地元で和牛の共進会があり、大臣表彰を大臣に代わって授与させていただいた。生産者の皆さんには、どんどんいいものを作っていただきたい。農林水産省は今後売ることにも主眼を置いていくと伝えたところ、皆さん、眼を輝かせて話を聞いていた。微力ながら一生懸命やらせていただく。

（大臣）あべ副大臣、中川政務官は消費者の目から相当な注文がいくと思う。消費者の目をくぐり抜けてこそはじめて日本の農林水産業である。また、小泉副大臣に先頭に立ってもらい、都市農業を続けていける体制を作り上げてもらいたい。佐藤政務官は、北海道の代表であるが、北海道だけでなく日本全体を世界に売り込んでもらいたい。

（皆川次官）まさしく省を挙げて、自身も一職員として本部の推進に当たってしっかり仕事をしていきたい。大臣をしっかり支えて大きな取り組みを成し遂げられるよう職員一同努力する所存。

（佐藤官房長）活力創造プランについては現在進行中であるが、成果を上げている事例について、次回の本部において各局庁・各地方農政局等から報告をよろしくお願ひしたい。次回の日程については、後日、事務局の方から連絡させていただく。